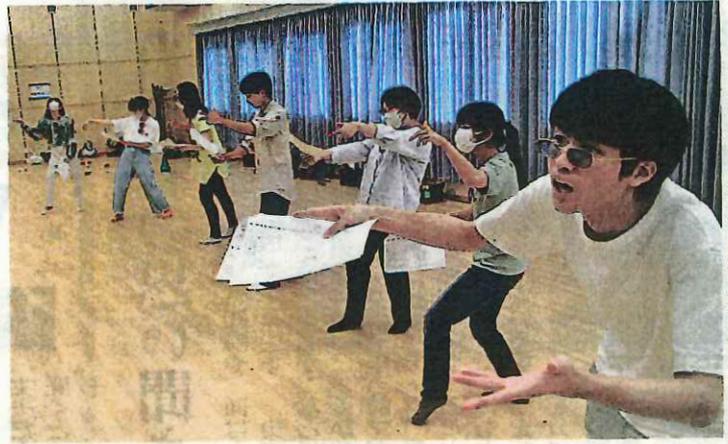


# 性の多様性 劇で表現

ジェンダーを題材にした演劇の練習をする学生ら＝長久手市の愛知淑徳大で



## 愛知淑徳大生 来月、北区で披露

愛知淑徳大（長久手市）の学生たちが、演劇を通して性の多様性を学んでいる。「男らしさ」「女らしさ」、結婚や服装に潜む固定観念…。学生の意見を基にした創作劇を九月二日、北区の北文化小劇場で披露する。

（水谷元海）

「祖母の面倒を見てんのせ、結婚について感じる違和感を吐き出した。嫁にさせるなんて」。二十三日に同大であった劇の練習。学生たちがリズムに乗

せ、結婚について感じる違和感を吐き出した。演劇は同大が二〇一七年から開講する「ジェンダー・ダイバーシティ表現演習」の一環で、今年は一

四年の二十八人が受講している。四月から四グループに分かれ、それぞれが感じているジェンダーの問題を議論。その内容を基に、同大非常勤講師の劇作家らが脚本を書き、八月から公演に向けて練習している。

公演名は「自分のための辞書を編む」。各グループは「恋愛と結婚」「装いの義務と自由」など、それぞれのテーマに沿った十分ほどの劇を上演する。

せりふは、役を演じる学生とは別の学生の意見を反映するようにしている。一年の酒井愛唯さん（二〇）は「世間一般の性の考えに違和感を感じている学生がいっぱいいいた。意見を出した学生はどんな気持ちなんだろうと想像しながら表現したい」と話す。

担当講師で劇作家の二ノキノコスターさん（四〇）は「ジェンダーは難しいテーマと構えるかもしれないが、学生目線で考えた劇、ダンスの要素などもあり、楽しく鑑賞してほしい」と来場を呼びかけた。

午後二時開演。入場無料で、一日午後十時までに専

用サイト＝QRコード＝から予約が必要。

2023年8月30日（水） 中日新聞 市民版 13面  
この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。



# 大紀で民泊PRなど提案

愛知淑徳大・前島准教授のゼミ生

愛知淑徳大交流文化学部で観光や地域活性の政策を学ぶ前島訓子准教授のゼミ生十三人が七日、大紀町野原の野原集会所で服部吉人町長や地域住民に、町内の交流施設や民泊事業に対する考えを発表した。

十三人は三班に分かれ、昨年十一月から町の地域活

大紀町の民泊事業の認知度向上や地域活性化についてアイデアを発表する愛知淑徳大生（中央奥）＝大紀町の野原集会所で

性の方向性に関するアンケートやインタビューを町民らにしてきた。発表では一時間にわたり、町内の交流

ふじや本店  
**光倫会館**

心をつなぐ  
**家族葬**

「心の会」会員様 募集中

四日市光倫会館(桜・富田)  
0120-114248

津光倫会館  
0120-248317

施設「野原工房げんき村」で子どもを呼び込むイベントの開催のほか、町内の民泊事業を知ってもらうため

に留学生を呼び込むことなどを提案した。

地域住民からは「第一次産業の衰退や空き家の増加は今後十年でさらに増える。どの町でも同じことが

起こっているので、もっと提案してほしい」などの意見が出た。

三年の奥田早希さん(20)は「大紀町は地域ごとに特色があり、人の輪の強さを知った。都心部にはない強みだと思つので、いい発見になった」と話した。

(谷口武)